

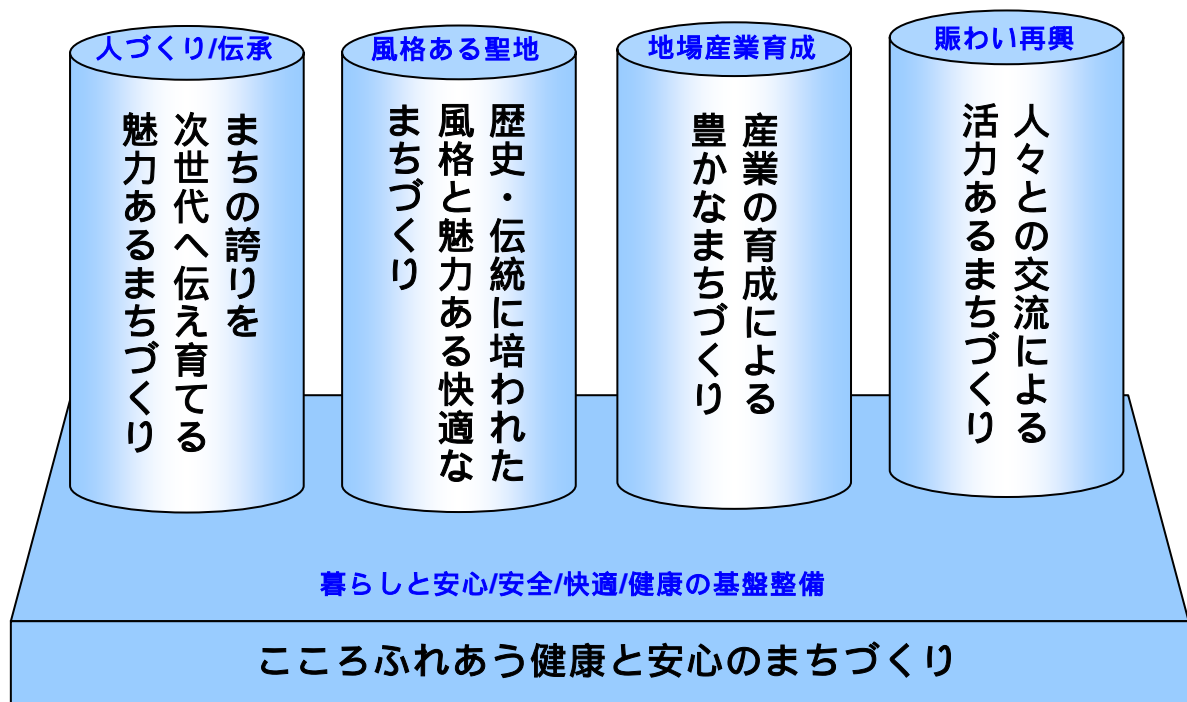
第2章 施策の大綱

高野町は弘法大師空海の開創以来、1200年の歴史と伝統が息づく高野山真言宗の聖地“高野山”を中心とした町で、国宝を始め重要文化財や美術工芸品など、和歌山県にある文化財の大半が高野町で保管・収蔵されているなど、文化豊かな町です。高野町は古くから多くの日本人の心のふるさととして慕われてきましたが、2004年のユネスコの世界遺産に認定登録以降は、国内はもとより世界の人からも注目されるようになりました。私たちはこうした過去から引き継がれてきた歴史・文化・伝統・環境を守り、次世代に伝えて行かなければなりません。

高野町はこうした誇りと使命をもって、「住みたい」、「住み続けたい」と思えるような「歴史と文化を守り伝える“こころ”豊かな高野町」を創り上げていかなければなりません。

将来像

歴史と文化を守り伝える“こころ”豊かな高野町

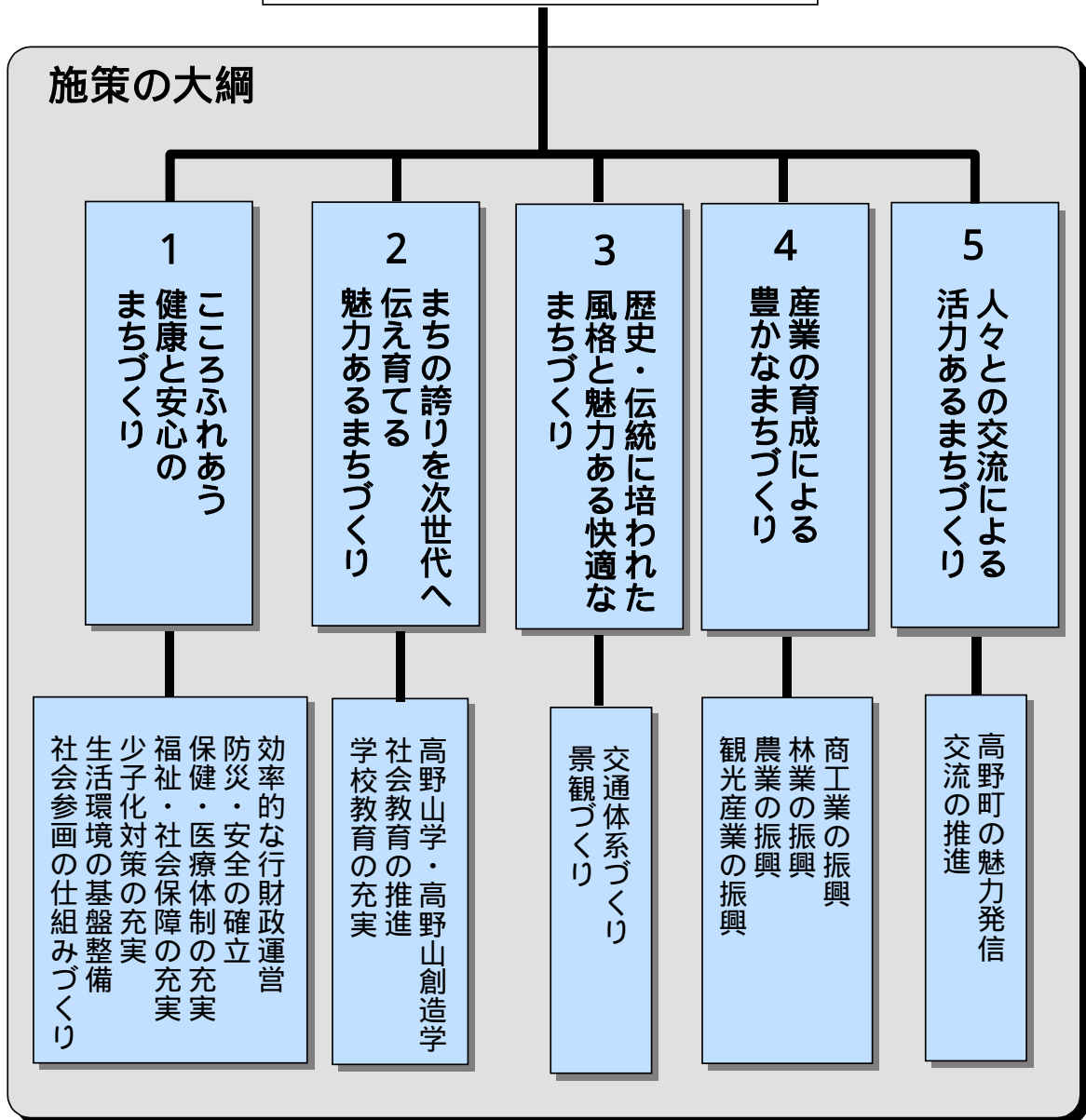


将来像

歴史と文化を守り伝える“こころ”豊かな高野町

宗教環境都市の実現

施策の大綱



第1節 ころふれあう健康と安心のまちづくり

私たちにとって、安心・安全な暮らし、そして、健康ではつつとした快適に暮らせる日常生活の実現は最も基本的で重要な施策です。ここでは住民が主役です。住民がこぞって地域コミュニティー に参画し、明るく活力ある地域をつくりましょう。このため、以下の7つの基本施策を推進します。

社会参画の仕組みづくり

地域で支えあうネットワークづくりを推進し、地域コミュニティー の結束を強くします。また、お年寄りの方や、障がいを持っている方も地域社会の一員として誇りと生きがいを持ち、安心して元気に暮らせるような仕組みづくりを進めます。

生活環境の基盤整備

安心して生活できる居住環境の整備、安全でおいしい水の確保と供給、生活道路の整備や地域に密着した交通手段の確保など、町民だれもが安心、健康、快適な生活を送れる生活環境の整備を進めます。

また、TV の地上デジタル放送への対応や、携帯電話がつかない地域の解消、高速インターネット通信網など、情報化時代に歩調をあわせた情報通信網の整備を国や県、民間と協力して進めます。

少子化対策の充実

子どもたちは、無限の可能性を秘めた「まちの宝」であり、「活力の源」です。このため、「子育てするすべての家庭を地域全体で支えていく」という視点に立ち、子どもを生み育てる家庭への支援の充実を図り、子どもが健やかに育つ環境づくりを推進します。

福祉・社会保障の充実

町民だれもが人として尊重され安心して暮らせるよう、共に助け合いこころ豊かな福祉のまちづくりをめざします。そして住民自らが「自立と相互扶助」の立場に立ち、生きがいを持って自立した生活を送れるまちづくりをめざします。また、個人の尊厳を尊重しつつ社会全体で支えあう「自助」、「共助」、「公助」の地域の実現をめざします。

保健・医療体制の充実

町民が健康を維持し健やかに過ごせるために、病気の早期発見、早期治療のための各種検診制度の充実など、疾病の予防施策を推進します。そして町民が必要なときに必要な医療を受診できるように、高野山病院、富貴診療所の診療体制の充実を図ります。

防災・安全の確立

町民の命と財産はもとより、地域の宝である文化財などを守り伝えるため、防災体制の確立と安心・安全のまちづくりを進めます。また、高野町を訪れる参詣者、観光客の安心と安全を図るための体制整備を進めます。

効率的な行財政運営

本町の行政施策や事業などに関する情報の公開に努め、地域が情報を共有し、住民が積極的にまちづくり活動に参加できる機会や活動の場を広げます。また、人と人や地域と地域の交流をさらに深め、より良いまちづくりを推進します。一方、財政健全化計画により財源の確保と経常的な歳出の抑制に努めつつ、計画的な財政運営に努めます。

第2節 まちの誇りを次世代へ伝え育てる魅力あるまちづくり

高野町は東に奈良県と接する東西約 22km、南北約 12km の紀伊山地北端に位置する自然豊かな山地に広がっています。1200 年の昔、弘法大師空海の開創地探しの際に最初の候補地となったと言い伝えのある富貴盆地。ここは海拔約 600m の高地であり、その特徴を生かした高冷地野菜、葉タバコ、ミョウガ、薬草、そして松茸の名産地です。また、一方の高野山には 1200 年の歴史を刻む、山上の宗教環境都市が展開しています。私たちはこれらのおかげの無いふるさとの自然や価値ある歴史・文化・伝統、そしてそこから派生した伝統産業を、自分たちで誇りをもってしっかりと次代に引き継いで行かなければなりません。

このため郷土の歴史や文化・伝統、郷土の偉人弘法大師空海を学ぶ、ふるさと教育を充実させる必要があります。そして次代を担う子供たちにも郷土の誇りを学び、心身ともに健康で思いやりの心を持つたくましい人間に育っていくよう努める必要があります。このため、以下の三つの基本施策を推進します。

学校教育の充実

郷土愛を持ち、自ら主体的・創造的に社会の変化に対応できる力と、思いやりのこころを持ったたくましい人間に育つよう教育を進めます。また、日本人としてのアイデンティティを育てるとともに、国際社会に生きる日本人として必要な資質と自覚をもった子どもたちを育てます。

社会教育の推進

住民一人ひとりが「高野町に住んでよかった」、「これからも住み続けよう」という気持ちと、住民による町づくり参加意識の醸成は大切なことです。このため、住民一人ひとりが参加でき、生き生きとした自主的な住民のための学習環境を整備し、「高野山学」や「高野山創造学」、「大人のサンわく学」など、様々なプログラムを企画して高野町ならではの社会教育をめざします。

高野山学・高野山創造学

「聖地高野山」の根底に流れる精神の真髄を“学び”・“守り”・“伝える”場である「高野山学」や、それをまちづくりに生かす「高野山創造学」などの学習の場を通じ、次世代を担う人材のまちづくりにおける「基本理念」と「こころ」を養います。そして同時に高野山の魅力の再発見及び情報発信へとつなぎ、交流人口増大策にも生かしていきます。

第3節 歴史・伝統に培われた風格と魅力ある快適なまちづくり

弘法大師空海が嵯峨天皇の下賜を得て真言密教の根本道場を開創以来、高野山は約1200年にわたって信仰を中心とした山上の宗教都市として栄えてきました。山上の社寺、周囲を覆う鬱蒼たる杉木立や、この小さな町に古義大学林に源を發する120年の歴史を誇る高野山大学を擁する高野山は、真言密教の聖地として世界に比類なき学園都市空間を形成しています。静寂莊嚴なる空間、そして醸し出される聖地としての風格と信仰の伝統は、脈々と息づき未来へと伝えられています。

私たちは、こうした無類の価値ある歴史遺産を引き継ぎ、未来へとつなぐ担い手として、より風格と魅力ある快適なまちづくりをめざします。

このため、以下の二つの基本施策を推進します。

景観づくり

平成21年3月より景観法に基づく景観計画がスタートしました。ここでは伝統的なかたちや材料を用い、周りの風景と調和した伝統的な日本建築をつくることを基本とします。商店店舗の修景や歩道の整備など、高野山にふさわしい質の高い風情あるまちなみづくりを進めます。

交通体系づくり

高野山のまちなかを歩行者主体の交通体系に転換し、だれもが円滑に移動できる歩行環境の改善や、公共交通の見直しを進めます。また、山内を通過する車両の交通体制や移動手段の適正化に努め、自動車交通量の減量化や環境に配慮した低床バスの導入など、人と環境にやさしい交通体系づくりを進めます。

第4節 産業の育成による豊かなまちづくり

四季折々に表情を豊かに変え、人々を魅了する雄大な自然の恵み、そして、世界に誇る山上の聖地高野山とそれを支えた周辺地域に残る伝統・文化・工芸・産業。私たちの高野町は、かけがえの無い価値ある豊富な地域資源に恵まれています。町ではこうした特色ある資源を活用し、これらと調和した高野町独自の産業を育成します。そして自立した豊かなまちをめざします。

このために、以下の四つの基本施策を推進します。

観光産業の振興

信仰を中心に据えた新たな価値に基づく「信仰ツーリズム」や、森林セラピーをベースとした「めざめの森」など、高野山の伝統・文化や緑あふれる大自然の魅力など、町の特性を生かした観光産業の育成充実を図り、観光事業の活性化を図ります。

農業の振興

高冷地の特性を生かした高原野菜などを高野山ブランドとして育て、宿坊などでの地元料理への活用や、直売会の開催や直売所の開設など、地域と連携して消費拡大に向けた仕組みづくりを進めます。

また、グリーン・ツーリズムの展開と、特に子どもたちに高野町の良さを知ってもらうため、「子ども農山漁村交流プロジェクト」の充実を図ります。一方、健全な農業の育成推進の一環として、農地の保全策を講じていきます。

林業の振興

国・県の補助制度を活用して効率的な作業道を敷設し、低コスト林業の推進を図ります。また高野材（高野霊木）としてのブランド化を進め、森林管理から販売までの流通販売システムの構築に努めます。

一方“町の木”でありシンボルでもある“高野榎”の販路拡大を推進します。また、高野山の森林の魅力を生かした“森林セラピー”事業を推進し、観光事業にも生かしていきます。

商工業の振興

町外との交流を中心とした商工業の活性化を図るため、高野山にふさわしい魅力ある寺内商店街づくりを進めます。また、農林業や観光産業と連携して高野山ブランド商品の開発、製造、販売を進めます。

一方、協業化の推進や融資制度を活用し、経営基盤強化を支援します。

第5節 人々との交流による活力あるまちづくり

ここ高野町には、毎年約120万人の観光客が国内はもとより、世界から「歴史探訪」、「宿坊体験」、「聖地の雰囲気」、「自然景観」、「癒し」など、本町が有する歴史文化や豊かな自然を求めて私たちのふるさとを訪れます。私たちは、これら魅力ある遺産を世界に、そして未来に発信することで、たくさんの訪問参詣者を招き、往時のにぎわいを取り戻していく必要があります。私たちは、訪れる人々におもてなしの心で接し、高野山の良さを再発見してもらい、笑顔のあふれる活力あるまちをつくりまします。

このため、以下の二つの基本施策を推進します。

交流の推進

本町には多くの観光客が訪れ、特に外国人観光客においては平成14(2002)年8,300人、平成16(2004)年の世界遺産登録年は10,500人、平成18(2006)年16,400人、平成19(2007)年には30,400人と急増し、平成16年比で3倍に増加しています。世界へ開かれた高野町として「おもてなしのこころ」あふれる温かいまちづくりを進め、国内外の人々と積極的に交流する機会を増やし、活力のあるまちづくりへとつなげます。また、こうした交流を通じて高野町の明日を担う人材を育てていきます。

高野町の魅力発信

高野山は、1200年の永きにわたって守り伝えられた精神文化と、それを取り巻く文化的景観にあふれる宗教都市です。長年の時を経て形成されてきたこれらの歴史遺産を学ぶことで、高野山の魅力を再発見することができます。そのため、「高野山学」や「高野山創造学」などの学びの場と連携し、国内外にインターネットやメディアを活用して情報発信をしていきます。また、交通機関とのコラボレーションや首都圏での情報発信など、滞在型観光客を増やしていきます。そのほか、山内において観光情報を携帯電話から簡単に引き出せる“ゆびナビ”や世界遺産情報センターの充実など、訪問客の利便性の向上を図り交流の拡大に努めます。

また、周辺地域や富貴地区には高野山とともに歩んできた歴史・伝統・風習・工芸などが今なお残っています。そして、町域の70%が標高600m以上の高地であることによる、特に四季の彩りが美しい豊かな大自然に囲まれています。こうした特長ある地域資源を掘り起こし情報発信していくことで、交流の拡大に努め高野町全体の底上げを図っていきます。

